

2021年度

(令和 3 年度)

学校評価自己評価表

加茂 中学校区

校番 45

福山市立 加茂小 学校

最終更新日

2021年(令和3年)4月12日

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ・残業を減らす取り組みとして、新型コロナウィルス感染症対策として抵抗力をつけることから食へ残しを減らす取り組みを継続していただいた。 ・個と集団とのバランスを考えたかわりをしていくことで、一人ひとりの児童生徒の力を伸ばしていただきたい。 ・若手の先生方が多くなるsyoubaで、しっかり先生方も育ててほしい。	児童生徒の現状 ・1小1中⇒中1ギャップは少ない △友人との関わりや見方が固定化 ⇒互いの新たな可能性や成長に気づきにくい ・不登校・不登校傾向の児童・生徒 小…増加 中…減少 ・生活面⇒△基本的な生活・学習習慣、規範意識等に課題 ・学力面⇒△基礎学力の定着・思考力等に課題 ・体力面⇒小○「体育の授業が楽しい」92% 中△県平均達成率38%	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	小 課題発見・解決力 創造力 社会性 中 考える・伝える・聴く力 見通す・振り返る力 社会性 豊かな心と、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を持ち、自律的・協働的に、自らや社会の未来を切り拓いていく子ども ①豊かなかわり ②必然性のある課題設定 ③見通す・振り返る
---------	--	---	--	--

III 自校	ミッション ○豊かな学びのある学校 ○生き生きと活動している学校	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	課題発見・解決力 身の回りの事象や体験から自己課題を設定し、様々な方法を試しながら取り組むことができる。 3・4年 身の回りの事象や体験から自己解決を設定し、自分や友だちが立てた見通しで取り組むことができる。 5・6年 身の回りの事象や体験から自己課題を設定し、自ら見通しをもち、より妥当な方法で解決することができる。	創造力 提示された知識や技能を活用して学習を行うことができる。 各教科で獲得した知識や技能を他教科での学習と共通していることに気づくことができる。 各教科で獲得した知識や技能を他教科での学習に関連付けて活用しながら学習することができる。	社会性 友だちのよさを見つけることができる。 友だちの考えを受け入れ、協力して物事に取り組んでいる。 自他の考えを認め合い、友だちと協力して自分の考えを深めたり広めたりすることができる。
	学校教育目標 豊かな心をもち、自ら学び、実践する子どもの育成		研究 テーマ 内容等	自らの課題を解決する楽しさを味わい、課題解決の力を他に汎用できる児童の育成 認知の仕組みから学習方法を見直し、児童が自ら多様な見通しをもてる授業づくりの工夫	
	現 状 〈児童生徒〉 ○明るく、素直で、挨拶のできる児童生徒が多い。 △基本的な生活・学習習慣が身に付いていない児童もいる。 △学習面では、「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。 △体力面では、敏捷性に課題がある。 〈授業〉 ○児童に『自己課題をもち、学びを楽しむ』力を育てるために、児童の学びを誘発する環境づくりを行った。 ○環境づくりのキーワードとして『遊びは学び 学びは遊び』を挙げ、遊びの要素を取り入れた環境づくりに取り組んだ。 ○カリキュラムの見直し、児童の興味関心に沿って他教科の学びをつないだカリキュラム構成を行った結果、活動のゴールに向けて児童自ら課題を設定することができた。また、遊びの要素から学びを楽しむこともできた。	めざす授業の姿	見通す・振り返る ～? (なぜ・どうして) が! (わかった・できた・なるほど) になる授業～		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価												福山市立			加茂小		学校	
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）							
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策			
2	自らの課題を解決する楽しさを 味わい，課題解 決の力を他に汎 用できる児童の 育成	★	継 続	課題発見解決力 （自らの課題をも ち，解決の見通し をもって取り組む 力）の育成	・「はじめの問い」 「環境」「しかけ」 にこだわった授業づ くりを行う。 ・認知の仕組みから 学習方法を見直し， 個人の研究テーマに 沿って授業改善を図 る。	・「授業の中で考 えたい，解決した いと思った」児童 90%以上 ・自己評価シート を作成し，肯定的 評価90%以上												
1	よりよい人間関 係を築ける児童 の育成		新 規	友だちのよさを見 つけ，協力して取 り組むことができ る力の育成	・友達と協力できる 場を学校生活の中 に設定する。 ・自分や友達のよい ところを見つけるこ とのできる活動を設 定する。	・友達と協力して 活動できる児童 80%以上 ・友達や自分の良 さを見つけること ができる児童80% 以上												
2	主体的に運動 遊びに取り組 む力の向上		継 続	・運動に親しみを もち，進んで体を 動かそうとする力 を身に付ける。 ・授業，遊び会，学 級レク等で様々な遊 び方（運動材）を提 示し，遊び方を工夫 する素地をつくる。 ・多様な遊び場を活 用し，運動に親しみ をもたせる。	・「運動が楽し い」児童90%以上 ・「毎週2回以上 運動をしている」 児童90%以上													
2	小中連携を含む 学校における組 織マネジメントの 向上		継 続	・中学校区の課題に 小中で連携し，取組 むシステムをつく る。 ・校内の推進体制を 整備（スクラップア ンドビルド）し，P DCAサイクルに基 づく業務改善の取 組みを全校で進め る。	・小中の連携を密に し，課題を共有し， 改善を図る。 ・学年会の時間と内 容を主任主事が精選 して設定し，学年主 任が中心となり進め る。	・中学校区推進協 議会で課題に即した 4部会を年4回以上 行い課題に対し ての改善策を立 て、実施する。 ・「仕事にやりが いを感じている教 職員」95%以上												

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。